

平成30年度（第Ⅱ期）教育文化学部国際交流等学術研究交流基金の助成事業

実施報告書

令和元年9月2日

所属・職名：教育文化学部 地域文化学科 准教授
氏 名：羽田 朝子

○事業概要

教育文化学部地域文化学科人間文化コースの三浦純玲さんは、大学間協定校である龍華科技大学（台湾）に10か月間（2018年9月～2019年6月）、交換留学生として留学した。

留学先では中国語研修コースで中国語を学んだほか、英語や専門科目に関する授業を履修し、合計26単位を取得し、いずれの科目も極めて優秀な成績を収めた。

留学中、地域文化学科のコアカリキュラムである特定地域研究ゼミや卒業研究についても着手し、それぞれ「日本人の台湾観光」、「台湾人の衛生観念」というテーマで研究を進め、関連する情報収集など基礎調査を行った。また日常生活において、台湾人学生や他国の留学生と交流を行ったほか、台湾の名所旧跡を訪れるなど台湾の歴史文化に触れた。

帰国後は、引き続き中国語や英語の語学能力を高めるとともに、台湾を含む中華圏に関する科目を履修して専門性を深め、留学の成果を特定地域研究ゼミや卒業研究でまとめる予定である。

○事業の実施により期待できる効果と意義

本人は、秋田大学に入学以来、中国語のほか台湾を含む中華圏の専門科目を履修しており、基本的な語学能力や関連知識を身に付けていたが、留学により長期的に現地に滞在することによって、以下のような成果をあげた。

まず集中的に中国語の科目を履修し、また中国語を使わざるを得ない環境に身を置いたことにより、とくに実践的な会話能力を飛躍的に伸ばすことができた。また台湾では英語教育のレベルが高く、留学先の英語の科目を履修することにより、英語のブラッシュアップをはかることもできた。また言語習得の過程で、台湾人学生や他国の留学生と頻繁に交流をすることにより、台湾や他国の文化習慣に対して理解を深めるとともに、グローバルな視野やコミュニケーション能力を育んだ。

そして、台湾の歴史文化に関して理解や関心を深め、自分なりの研究テーマを見つけることができた。当初、本人は台湾留学の目的として言語の修得を重視していたが、現地に長期間滞在したことにより見聞を広め、日台の歴史的背景や現在の友好的な関係性に直接触れたことから、台湾の歴史文化、とくに衛生観念の問題や観光をめぐる日台関係について関心を持ち、これらを研究テーマにしたいと考えるようになった。帰国後、すでに特定地域研究ゼミは、留学で培った経験を活かし、ゼミの中心的な存在として力を発揮している。

こうした留学で得られた成果は、帰国後の大学における学びだけでなく、卒業後の進路にも大いに役立つものになると期待できる。

○事業期間全般にわたる感想と課題

留学はもちろん、これほど長い海外滞在は本人にとって初めてであり、学生時代でなければできない貴重な経験であったと思う。本人も留学前に語学や台湾に関する基本的知識を身に付けるなど事前準備をしておき、また留学中学習に真面目に取り組み、現地の人との交流にも積極的に参加した。こうした努力があっただけで、上述したような成果を得られたのだといえる。

課題としては、留学先の中国語研修プログラムには科目数が少なく、学生個人の能力にあわせた履修が難しかったことである。これについては留学先と連絡をとり、次回学生を派遣するまでに改善を図りたい。

なお、今回の留学は国際交流等学術研究交流基金の支援を受け、現地へ向かう交通費として使用させていただいた。寄付者の方には深く感謝を申し上げたい。

（以下は本人の感想）

1517588 教育文化学部地域文化学科人間文化コース3年 三浦純玲

私は台湾での留学を経験し、語学力と自分自身に大きな変化を感じている。

まず語学力については、留学前は授業の中でしか中国語に触れることができず、実際に会話をする機会もなかったが、留学中は授業で習った中国語をすぐに実践する機会があったおかげで、会話力を自然と身につけることができた。

また、留学を通して自分自身も大きく成長できたと感じている。台湾に来て最初の頃は右も左も分からず、また大学には日本人が私しかいなかったため心細い思いをしたが、自分の力で問題を解決しようという気持ちが生まれ、うまく現地での生活に適応することができた。

私にとって留学の意義は、長期的に異文化に触れることができることだと思う。日本にいてもある程度は可能だが、留学は決められた期間継続して外国に身を置くことができ、長期的に異文化に触れることができる。短期間では分からないことも自然と見えてくるのである。

龍華科技大学の交換留学生は、学部学科の区別なく授業を選択できることから、私は中国語のほかにも英語の授業も選択した。中国語と英語という、二つの言語を学ぶことができたことも大きな収穫であった。授業を受けるごとに新しい知識を得ることができ、自分が言いたいことを中国語や英語で表現できるようになっていくのがとても楽しかった。

台湾人の友人はもちろん、ほかの国の留学生とも日常的に交流した。たとえば中国語クラスにはベトナム人や韓国人、寮のルームメートには台湾人のほか、韓国人やシンガポール人がいた。また連休には台湾中央部にある台湾人の友人の実家に出かけ、お正月や春節を過ごした。台湾の一般家庭でホームステイのような体験ができ、招待してくれた友人にはとても感謝している。

また留学中、私にとっての当たり前は、他の国の人にとっては当たり前ではないということを何度も実感させられた。たとえば台湾は一年を通して温暖で、冬でも15℃くらいはあった。秋田生まれ秋田育ちの私にとって、雪のない冬は初めてであり、不思議な感覚がした。台湾人の友人に実家は秋田だと言うと、雪を見たことがあるのかと必ず尋ねられ、雪を一度も見たことがないという人も多かった。

龍華科技大学には日本語の先生が1人おり、その先生の誘いにより、着物を着て茶道をする体験に

参加した。日本文化に興味のある学生がたくさん集まっているのを見て、嬉しいような誇らしいような気持ちになった。台湾で日本文化が愛されているのを肌で感じた経験であった。

10ヶ月の台湾留学を健康で無事に終えられたこと、たくさんの思い出ができたことは全て私の周りの方のおかげだと思っている。ここに感謝の気持ちを表したい。これからも中国語の学習を続け、台湾について理解を深めていきたいと思っている。

留学に当たって、ご支援くださった国際交流基金寄付者の皆様には、深く感謝を申し上げる。今回の経験を今後の勉学に生かせるよう努力していきたい。また国際交流にも積極的に関わっていききたいと思う。



台湾の家庭料理（台湾人の友人の自宅にて）



中国語クラスの友人と先生（教室にて）